

主体的な学び・主体的な生活



新型コロナウイルス感染症の終息への道筋は未だ定まらず、町や集落の行事は相次いで中止となりました。学校では感染症予防措置は継続しながら、地域住民や関係機関を講師として招聘するなど、平常の教育活動に戻りつつあります。

このような状況の中で考えるのは、子どもたちに「主体的に学ぶ力」や「主体的に生活する力」をどのように身に付けさせるかということです。社会のグローバル化や高度情報化が進み、何が起こるか分からない時代になりました。これからの社会を生き抜いていくためには、今回のような想定外のことが起こったときに、いかに自分を成長させていくかが重要であり、以下の3つの力が必要となります。

- ①実際に社会や生活で生きて働く「知識・技能」
- ②未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ③学びを人生に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」

小学校では、新しい学習指導要領のもと「主体的・対話的で深い学び」という学習観で授業が展開されており、本校では「主体的に学び合いながら課題を解決し表現できる子どもの育成」をテーマに、研究授業を通した検証を進めています。社会に出てからも、学校で学んだことを生かせるよう、3つの力をバランスよく育みたいと思います。

最初の1歩



龍郷消防分署職員と県立大島病院救急科医師を講師としてお招きして、全児童と職員でBLS学習を行いました。BLS (Basic Life Support) とは、心肺停止や呼吸停止に対する一次救命措置のこと。専門的な器具や薬品を使う必要がないので、正しい知識と適切な処置の仕方さえ知っていれば、誰でも行うことができます。最近では、小中学校でも防災教育として積極的に取り入れられるようになりました。まずは救急科医師からBLSの流れ①安全の確認②反応の確認③119番通報④呼吸の確認⑤心臓マッサージについての説明を受けました。つぎに、消防分署職員の指導のもと、人形を使った心臓マッサージの実践練習をしました。さらに、事故現場を想定した消防署への119番通報を行いました。子どもたちは、救急科医師の「救急隊や医師がどんなに頑張っても一番重要なのは最初の対応です。勇気を出して最初の一步を踏み出して」という言葉を重く受け止め、命を守る行動の大切さを学びました。いよいよ海水浴シーズン、緊急時の対処方を実際に体験するよい機会となりました。



菊次郎ミュージカル
円小6年 姫野 千葵

私が5年生の時に一番うれしかったのは、西舞菊次郎ミュージカルが成功したこと。町の青少年育成事業で町内在住の小中高生がメンバーです。新型コロナウイルスの影響もあり、約2年かけ練習し、今年3月に初公演を行いました。私がミュージカルをやつて良かったことは三つあります。まず歌やダンスの楽しさを知りました。練習で歌とダンスが一番好きです。次に、体がだんだん柔らかくなりました。その後、2人の仲間に出会えました。皆で力をあわせて成功させることができました。

高校を卒業した4人は、島を離れ寂しいですが、気持ちを切り替えて二期生と二緒に楽しく笑顔でやっています。本年度の初稽古も始まりました。次の練習もとても楽しみで、朝から胸がワクワクしています。(龍郷町)

高校を卒業した4人は

令和4年6月5日 南日本新聞「ひろば」

7月の行事予定

日	曜	行事名等
8	金	第1回学校評議員会 第1回校区教育懇談会
9	土	土曜授業日(クラブ活動)
13	水	租税教室(6年)
20	水	1学期終業式
24	日	龍郷町ふるさと祭